

【活動報告書】

作成日：2018年8月24日（金）

作成者：鈴木敦己（総務部2年）

活動名：被災地訪問

実施日：2018年8月17日（金）、18日（土）

訪問先：宮城県仙台市など

参加者：14名（現役13名、学生OB1名）

▷訪問の目的

- ・子ども達の思いを想像する。
- ・子ども達が何を経験したのかを知る。

▷企画した理由

- ・子ども達が何を経験したのかをよく知らない学生も多く、東日本大震災に関するボランティア活動をしているからには被災地について知っておかなければならないと考えたから。
- ・キャンプ中に子どもから震災の時や親が居たらなあなどという話が出て来た時に慌ててしまったという学生の話聞き、子ども達の震災の話を受け止められるようになって子ども達の心により寄り添うことができるようになりたいと考えたから。

1日目は被災地で今までに何があったのかを知ること、2日目は被災地の現状、これからの姿を知ることがを意図して行程を組んだ。

<1日目>

12:00 仙台駅集合



東京大学消費生活協同組合の窓口を通じ、中型バス（定員27名）を貸し切って今回の移動手段とした。

※利用したのは「東和観光バス」

12:30 震災遺構「仙台市立荒浜小学校」見学

仙台市若林区荒浜にある震災遺構「仙台市立荒浜小学校」を見学した。

○実際に被災地に行ったことがなかったの
で、テレビなどで見るよりもとても身近に
感じることができました。被災した人の被
災したときの思いをつづっている文章があ
って、直筆だったものもあり、とても胸が
苦しくなりました。(参加者アンケート)



○津波で全て流されて何もなくなった、というコメントを映像つきでみて、私たちにほと
も想像するのは難しい感情があるのだなと思った。しかし、少しでも知ろうとすること
が大切なのかなとも感じた。(参加者アンケート。以下、文頭の○のみで表示する)



徒歩数分に海岸があり、新たな防波堤も
確認できた。

○海岸にしてみると瓦礫はもうほとんどなかつ
たけれども、7年前にあった家はもう跡形もな
くなっていて、人々の暮らしをまるごと津波がうば
ってしまったのだなと実感しました。

15:20 「東松島市震災復興伝承館」見学

東松島市にある「東松島市震災復興
伝承館」(旧 JR 野蒜駅)を見学した。

○野蒜のスタッフの方のお話が印象的で、友
達や家族のために命を失った方や自分の命を
守りきった方についてのお話を聞き、改めて
命の尊さを感じました。



○津波の映像を、実際に起きた場で見ること
で、「日本のどこかで起きてた悲しいこと」
という認識より「実際に起きた恐ろしいこと」
という意識が強くなったように感じる。



内陸部の高台に、住宅街ごと移転された新しい駅舎も確認できた。

○伝承館での映像が衝撃的だった。新しい野蒜駅はとてもきれいで、復興に向かって
いる一面を知ることができた。

○テレビなどで見ているだけではわからない実際に体験したひとにしかわからない部分はやはりあるのだろうけれど、できれば現地に行って一緒に寄り添いながらがんばることが大事なのかなと思いました。

17:30 1日目の行程を終え、石巻市内に宿泊（「メープルテラス」）

<2日目>

9:00 ご講演

「石巻復興支援ネットワーク」代表理事の兼子様にご講演いただいた。

○言葉1つ1つがつきささった。目の前で、経験した人が震災の話を思い出しながらして
くださるのはグッとくるものがあった。正直内容がすごすぎて、全てを受け止められな
かったけれど、少しずつ時間をかけて自分の中で考えていきたい。

○ボランティアを、ただ与えるのではなく、そこにいる人達ができることはしないで自律
出来るように促してほしいと言っていたのが印象に残っています。兼子さんの子供さんが
今でも震災での傷は癒えていないと言っていて、やはり震災での傷は深く、忘れて生きて
いくというよりはともに生きているのだなと感じました。

○当時の話をとても詳細にさせていただき、状況だけでなく現地の方の思いも知ることが
できた。兼子さんがお話しして下さった心構えはゆめつばにつながる事が多く、子ども
に寄り添い続けたいと思った。

11:40 女川駅前にぎわい拠点「シーパルピア女川」見学



女川町の女川駅にあるにぎわい拠点「シーパルピア女川」を見学した。

○本当に津波があったとは感じもしないほどここでは新しい建物がずらっと並んでいて、きれいではあるけれど、もともとあった建物がいまはもうないということも感じられて、復興のうらで寂しさも感じました。

○テレビの特集で見たところだった。とてもきれいで美しいところで、ここが津波の被害にあったとは思えなかったけど、周りを見ると工事中の土地が多く、この7年間で少しずつ復興が進んできて、今日この姿になっているのだなと感じた。

ここはとても穏やかな空気が流れていて、震災に関連した場所であるけど、心を落ち着かせる場所になっている気がした。素敵な場所だなと思える場所にまわられてよかった。

14:40 「南三陸さんさん商店街」見学



○ここでも女川と同じく新しい建物が並んでいて、でもまだ回りは工事をしているところもあって、皆さん新しいところで頑張られているのだなと感じました。津波の写真もあって、こんなにひどい被害があったとは思えないくらい今は瓦礫も片付いているけれど、まだまだ周辺が復興するのに時間がかかるのだろうなと感じました。

(海鮮丼がおいしかったです！)

17:00 仙台駅解散

○いくらテレビを通して実際に行ってみないとわからないことはやはりたくさんあるのだなと感じたし、自分にできたことがもっとたくさんあったのではないかと思いました。亡くなられた方々のご冥福を祈るとともに、残された方々の思いをできる限り知りたいなと思いました。

○私がなにかをしてもそれはまだ微力であると思うけど、だからと言って無知のまま生きていくのは違うなと思った。

それはゆめつばで活動するから、だけではない。

自分が生きていく上でも、震災のことを考えるのはとても大事なことだなと強く感じた。だから、知らないまま社会人になる前に、少しでも触れることができると本当に良かった。

○これから子供たちと長く関わっていくにあたって、もっともっと子供たちのためになることは何か、自分が一緒にできることは何か考えていこうと思いました。そして東日本大震災の被災地だけではなくほかの災害の被災地に対しても自分が出ることがあるなら躊躇せずに行動しようと思いました。